

興正の春に當面して

平の三萬全市民を擧げ

例年と異る節季氣分

世相の騒音を描き立てる師走は愈よあすからだ。戰時色の盛り上げた歲末風景は非常時に鍛ねられたるもの中にセチ辛酸波りの陰氣を吹つ飛ばして興正の氣温の二千六百年を迎へる前奏の意味於恒例の賣出しながら無い處へ、ボーナスの氾濫、購買力の抑制とハチ切れさうな底力を孕んで、最近突然した一部の災害などはあり乍ら旺盛な状況と海の幸その他の各方面とも大体順調に惠まれて今師走は浮はつい狂躁氣分が微塵も無く、決済率・拍車率・銃後緊張も一人に如何にもかわしりした強烈味を見せ乍ら、七分搞き米獎勵・消費節約の強制等、等當局の警告も嚴しく全市民に戦時下減末の真剣を喰り乍ら日一日と興正の希望的春を持機の態勢に入らんとしている。

水揚げ一百萬突破

鯉以来の豊漁に賑ふ江名

漁都江名町では過ぐる鯉漁量は十萬圓中出動六隻中多は十萬圓少とも六萬圓合計四十餘萬圓を水揚げして引継ぎ、殆ど同額に近き秋刀魚の豐漁の處へ昨今は一隻十枚入丸乗り込へて一晩數割異議申立(却下)等を附歸りの近海漁業者一へ一曳網で此同額一帯は高値時代の漁獲物の處理に天手歌舞伎の如きを眺めるべき昨今向は絶頂であるべき現在の十隻から一躍二十四隻に激増するものと現らるる。

新鋭漁船を建造

濱一帶最近の意氣込み

時代の脚光を浴び

在京郷黨の横顔

號六十八百六千五百第一

[日曜金]

日 城 新 朝

昭和二十年四月一日

[可認物便郵種三第]

月十日午前九時から四食セメント演武場に舉行、各分區の劍、柔、弓道の優勝旗(二八は二十八日午前五時半頃作業中落着重傷死)

落着。内郷村高坂字平渡

落着。内郷村高坂字平渡